

## 9月22日 読書会 活動報告

「吾輩は猫である。名前はまだない。」近代日本文学の巨星、夏目漱石の「吾輩は猫である」の冒頭です。誰でも知っている親しみやすい書き出し文句とは逆に漱石の処女作は意外と分厚い一冊で、これを原文で完読した人は意外と少ないようです。この度漱石生誕150年と漱石記念館開設を機会に精読を試みました。

漱石は生涯の世相観察を「猫」による実況中継するというユニークな手法を取っています。

自身は病身ながら常にユーモアとジョーク、風刺や冗談を下敷きにして激動した生涯の変化を巧みに投射しています。ある時はボケと突っ込みの落語風に、またある時は名画家の如く微細な人間観察だったり、また文体は漢字熟語を多用しながらも快調なテンポで読みやすく現代に通じる話が多いです。

予め漱石の生涯を現代の就活用の履歴書スタイルで準備したことが理解を容易にしたかも知れません。